

秋のドイツ (1978)

DEUTSCHLAND IM HERBST
GERMANY IN AUTUMNメディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 西ドイツ
時間 134分
初公開日 1984/02
公開情報 欧日協会

【解説】

77年10月後半に西独で起きた一連のテロルに呼応する形で、いわゆる“ニュー・ジャーマン・シネマ”の作家たちがそれぞれの政治的主張を持ち寄ったオムニバス映画。

ある婦人が心ならずも捜索中のテロリストに出会う話（ルーペとペーター・クロース）、東独との国境を守る警備隊員についての論争的挿話（E・ライツ）には脆弱だがストーリー性はあり、シュレンドルフによる、テレビ局の舞台裏を描いた作品はシネマ・ヴェリテ風というか、セミ・ドキュメンタリー・タッチの笑劇で、ギリシア悲劇、ソホクレスの『アンチゴネー』のTV化が、編成局によってプログラムから降ろされた顛末を描いたもの。ノーベル賞作家のベルが脚本を手掛け、古典劇が現実に引きずられアクチュアルに変貌していく様にうろたえる責任者の描写には、政治的傍観者に対する皮肉が効いている。こうした掌話を貫く形で、映画は、二つの相反する立場の“犠牲者”のレクイエム（片や過激派に殺害された青年シュライアー、一方はシュタンハイム刑務所で自害した複数のテロリスト囚人の埋葬）をドキュメンタリーとして挿入し、強い異化作用を与える。だが、それより激烈でまた誠実味溢れるのは、驚くべきニュースに対する自分の反応を記録したファスビンダーの一篇。彼は、自宅に閉じこもり、ただラジオと電話でだけ外界と接触し、母親とすれ違いの虚しい論争を繰り返す。彼の明確な政治的自己認識と、それゆえ孤立する姿には、深い共感を覚えた。この部分あってこそ伝わる映画にもなったかと思う。

【クレジット】

監督	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー	Rainer Werner Fassbinder
	アルフ・ブルステリン	Alf Brustellin
	アレクサンダー・クルーゲ	Alexander Kluge
	マクシミリガン・マインカ	M. Mainka
	エドガー・ライツ	Edgar Reitz
	カーチャ・ルーペ	Katja Rupe
	ハンス・ペーター・クロース	Hans Peter Cloos
	フォルカー・シュレンドルフ	Volker Schlöndorff
	ベルンハルト・ジンケル	Bernhard Sinkel
脚本	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー	Rainer Werner Fassbinder
	アルフ・ブルステリン	Alf Brustellin
	アレクサンダー・クルーゲ	Alexander Kluge
	マクシミリガン・マインカ	M. Mainka
	エドガー・ライツ	Edgar Reitz
	カーチャ・ルーペ	Katja Rupe
	ハンス・ペーター・クロース	Hans Peter Cloos

	フォルカー・シュレンドルフ	Volker Schlöndorff
	ベルンハルト・ジンケル	Bernhard Sinkel
	ハインリッヒ・ベル	Heinrich Böll
	ペーター・シュタインバッハ	Peter Steinbach
撮影	ミヒャエル・バルハウス	Michael Ballhaus
	ユルゲン・ユルゲス	Jürgen Jürges
	ボードー・ケスラー	Bodo Kessler
	ディートリッヒ・ローマン	Dietrich Lohmann
	コーリン・ムニール	Colim Mounier
	イェルク・シュミット＝ライトヴァイン	Jörg Schmidt Reitwein
	ワーナー・リュリング	Werner Luring
出演	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー	Rainer Werner Fassbinder
	リーゼロッテ・エーダー	
	アンゲラ・ヴィンクラー	Angela Winkler
	ハインツ・ベネント	Heinz Bennent
	ヘルムート・グリーム	Helmut Griem